



耳よりな話

(労働・社会保険ニュース)

N.42 平成 25 年 5 月 23 日発行

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

あの人の年金はいくら ?

他人の年金額は一体いくら位なのか気になるものです。

昨年 10 月に厚生労働省は平成 23 年度老齢年金受給者実態調査を発表しました。

公的年金

(男性)

200 万円 ~ 300 万円	36.2%
100 万円 ~ 200 万円	26.4%
300 万円以上	9.1%
平均	179.4 万円

(女性)

50 万円 ~ 100 万円	39.9%
100 万円 ~ 200 万円	28.1%
50 万円未満	24.5%
平均	94.3 万円

収入全体 (公的年金を含む)

(男性)

200 万円 ~ 300 万円	30.9%
300 万円 ~ 500 万円	25.3%
平均	297.1 万円

(女性)

100 万円未満	51.3%
平均	128.5 万

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。

吟詠

詩吟の愛好者は非常に多く、根強い人気を保持しています。

長年詩吟を愛好し、今や趣味の域を超え吟詠師範(鶴翔流吟詠会宗家代範)として教室での指導にご多忙な毎日を送っておられる江尻 一征(えじり かずのり)さんに、詩吟に関する随筆をお願いしました。

氏は、全国吟詠コンクール、全国合吟コンクール、日本詩吟協会コンクール、ピクチャーコンクールなど各種コンクールに入賞しておられます。

江尻 一征さんは鹿児島県ご出身、昭和41年早稲田大学理工学部を卒業後、外資系企業に就職されて内外で活躍したあと起業し、同時に名古屋商科大学の講師として学生の指導にもあたってこられました。

その誠実なお人柄からいろいろな会役員を委嘱されてご活躍の傍ら、囲碁、油絵と多彩なご趣味の他に長年座禅会にも出席されています。

前号に引続きその第2回をご紹介します。

(一) 吟詠の歴史

「歌」の元々の成り立ちは、人間の歴史の中で、初めに言葉があり、一定のリズムと韻を持った「詩」が作られ、それを人に伝えるために、状況によりゆっくりと、しかも一定のボリュームの声で歌い、やがて「美しく詩情を伝える」という芸術的欲求から「節調」がつけられた。といった過程を経て「歌」や「朗詠」が誕生したといわれている。インドでは五千年前から既に「詩」が朗誦されていたといわれ、中国の「詩」は元来、吟ずるために作られたものだといわれている。尾崎弥太郎という人の「西洋楽譜日本詩吟集」に「日本音楽の樞といわれる歌唱芸術詩歌の朗吟は、古来、幾度も盛衰変遷を経て今日に至っているが、最も盛んであったのは中世(平安時代)、当時博学宏才の殿上人の間に優美華麗な旋律で詠じられている」とある。「元禄時代は文学が盛んになり碩学宏儒が続々世に出て詩賦の朗吟も盛んであったが、大平の徳川の世を謳歌するものに対して皇室の式微を悲しみ、武家政治の専横を憤り、詩を痛歌する人々が出て来たため、在来の優美流麗な節調に加えて悲壮雄偉な口調になり、更に幕末維新になり全ての音楽的な教養なく、昔の優雅な日本旋律を錯乱し、ただ愛国の情一途で国事に尽瘁している熱血の書生が自己流にただ大声でどなるのが詩吟と考えられ、朗詠がいわゆる書生唱歌となってしまっている」とある。つまり、詩の朗吟は平安時代から優美流麗な節調が受け継がれてきたが、幕末になってそれが乱れ、節調だけでなく、声の質そのものが、ただ大きいだけの「がなり節」となってしまったということである。現代の吟詠が、特に男性の吟で“強い声”をことさら強調しているのは、ここから始まっている。「激しい嘆き」、「憤り」などの表現に強い声は必要だが、朗吟はもともと優美で流麗なものであった。また、朗詠について「朗詠は平安朝の中期から中世にかけて行われた漢詩文の詠唱のことで、今日の詩吟に似ているが、今日の詩吟そのものではない」、また、吟詠の成り立ちに影響を与えた日本の民族芸能として「今様、平家琵琶、薩摩・筑前琵琶。また仏教伝来につれて広められた“声明”などの影響が見られ、特に琵琶を専攻して吟詠家になっている人

には、独特な味がある」とされている。琵琶は現代吟詠の発声法、特に関西地方の吟詠に影響を与えている。大正、昭和の吟詠が盛んになったとき、主に関西で多数の琵琶師（琵琶吟）が吟詠に転向して普及に一役買ったためであり、同時期の浪曲から転向した吟詠家によって、独特の発声が広められたことと合わせて、吟詠の発声を特徴づける一つの要素となった。

（二）吟詠の普及

吟詠が今日のような体裁で普及し始めたのは、江戸時代末期といわれる。それも広瀬淡窓（1782～1856）の影響が大きいといわれている。淡窓は、私塾（桂林荘）を造り、正しい学問を教え、優れた人材を養成することに心を砕いた。その門人は四千人といわれ、多数の逸材を世に送った。やがて、大政奉還が行われ、徳川幕府の終焉とともに明治維新になると、世界の国々との交流が始まり、あらゆる国の文化、特に欧米の国々をまねて西洋文明一辺倒となり、それにつれて儒学者や漢学者は地位を失い、漢詩の権威も落ちて詩吟が衰退した時期があった。そうした曲折を経ながらも吟詠は吟じ継がれ、大正末期から昭和にかけて再度盛んになっている。また、戦争中は士気を鼓舞するために盛んに吟じられたようである。終戦後は、連合軍司令官マッカーサーの命令により、詩吟は軍国調だということで一切禁止されたといわれるが、後に理解を得られ昭和二十五、六年頃から再度盛り返し、現在に至っているといわれている。



テレビの大河ドラマでは「八重の桜」が放映されて、併せて会津藩、松平容保の人気も上がっています。

衆知のとおり、会津藩祖は保科正之ですが、二代將軍徳川秀忠の妾腹の子として生まれたものの、正妻お江にさとられないように養育されました。三代將軍家光は、弟の忠長を切腹に追い込みますが、同じ弟の保科正之に対しては、その忠節を信頼し徳川御三家に次ぐ待遇として、四代將軍家綱の將軍補佐を託しました。

保科正之は見事にその期待に応え、さらに幕末までの歴代藩主（途中から松平姓となる）も將軍家への忠節を第一としました。

尊皇攘夷の幕末、松平容保は京都守護職を引受けさせられ、將軍家への忠節と同時に孝明天皇からも厚い信頼を得ましたが、最後は朝敵にされてしまい、あの白虎隊の悲劇となっていきます。

松平容保の晩年はどうなったのでしょうか。日光東照宮の宮司となり生涯を終えました。徳川家は第15代將軍慶喜が大政奉還して幕を閉じますが、現在の徳川宗家第18代は徳川恒孝氏です。その徳川恒孝氏は松平容保のひ孫に当たります。

会津藩の將軍家への忠節は格別のものですが、その根底には代々藩主の子弟教育にあります。藩校 日新館の「什の掟」（じゅうのおきて）に行き着くのではないのでしょうか。

「什の掟」については、「耳よりな話」号（平成20年11月25日）にて紹介しておりますので、ご参照ください。

おめでとうございます

「耳よりの話」N.24（平成22年1月12日）にご登場いただきました 安元 百合子さんは長年の教育界への貢献により、このたびの春の叙勲で「瑞宝双光章」を受章されました。真におめでとうございます。



第一生命が毎年「サラリ - マン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

（本件は第一生命様から転載の承認を得ております）

オレオレに亭主と知りつつ電話切る	反抗妻
所得税 所得増えずになぜ増える。	税金泣かされ夫
講演会 よく寝た人ほど拍手する	小春日和
ケンカしてわかった妻の記憶力	機関銃
年金で 息子の年金 掛けてやり	子孝行

第十八回 第一生命サラリマン川柳コンクールより